

地球惑星科学関連学会

連絡会ニュース

No. 31

(2004年12月)

- [1] 地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会のお知らせ
- [2] 第 30 回地球惑星科学関連学会連絡会議事録(案)
- [3] 連携のあり方に関する検討ワーキンググループ報告
- [4] 地学教育に関する提言

本号は 2005 年合同大会の予定をお知らせします。来年の合同大会は、2005 年 5 月 22 日～26 日の 5 日間を会期とし、本年と同じ幕張メッセ国際会議場で開催されます。参加費、投稿料がオンラインシステムによるクレジットカード支払いのみとなりますので、ご注意ください。また、第 30 回の連絡会の議事録(案)および各学会の連携のあり方に関する検討 WG を報告します。さらに、「地学教育」の中央教育審議会への提言について、提言に至る背景や主旨をお伝えします。

[1] 地球惑星科学関連学会 2005 年

合同大会のお知らせ

地球惑星科学合同大会運営機構

- 目次 -

- § 1 合同大会案内サマリー
(各種登録日程、費用、お問い合わせ先)
- § 2 セッション案内
- § 3 各種登録について(変更・キャンセル他)
- § 4 運営機構からのお知らせ(展示・会合のお申込等)

§ 1 合同大会案内サマリー

- 会期：2005年5月22日(日) - 26日(木)
(5月22日 特別公開セッション)
- 会場：幕張メッセ 国際会議場

●各種受付開始日・締切日：

	受付開始日	受付締切日
予稿集原稿投稿	2005/1/11 (火)	早期投稿締切 2005/2/14(月) 17:00
		通常投稿最終締切 2005/2/21(月) 12:00
大会参加登録 事前申込		最終締切 2005/4/13(水) 12:00

** 最終締切以降の参加お申し込みは、当日総合受付にてお願いします。

●各種料金：

予稿集原稿投稿		
早期投稿	2005/2/14 17:00 まで	1,500 円
通常投稿	2005/2/21 12:00 まで	3,000 円
図掲載	Web アップロード	500 円
	郵送	1,000 円

** 投稿料金は、新規投稿を終えた時点でお支払いいただくことになりました。その後内容を変更されても料金は変わりません。

** 図の掲載は希望者のみで、新規投稿料に加算されます。

事前参加登録申込

全日程券	一般 11,000 円	学生 5,500 円
24 時間券	一般 6,000 円	学生 3,000 円

当日参加登録申込

全日程券	一般 13,000 円	学生 7,000 円
24 時間券	一般 7,000 円	学生 4,000 円

** 学部生および 70 歳以上の方は、投稿の有無に関わらず参加登録が無料となります。

●お支払方法：

2005 年大会から個人によるお支払は、予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時に、オンラインシステムによるクレジットカードでお支払いいただくことになりました。

内容に従って、大会ホームページより支払をお願いします。(銀行振込・郵便振替は廃止させていただきます)
(ご注意)

** 最終締切以降の参加登録お申し込みは大会当日払いとなります。事前申込は 4 月 13 日 12:00 までにお済ませ下さい。

** 支払方法の変更により、請求書の送付はありません。請求書の必要な場合は、4 月 13 日までに事務局へご連絡ください。(領収書はプログラム等と一緒に送付いたします)

** 「公費払」など登録者以外の方が支払う場合は、大会ホームページの「決済方法登録画面」で「指定機関払登録」を行って下さい。ホームページに入る前に、支払

責任者（運営機構からの請求先）の確認をお願いします。後日請求書を送付しますので銀行振り込みをお願いします。機関毎にまとめて請求書が必要な場合は3月20日までに事務局へご連絡ください。ただしこの場合、手数料としてお一人につき2,000円追加して請求させていただきます。

●大会ホームページ：

2005年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

合同大会ホームページ
<http://www.epsu.jp/jmoo2005/>

詳しくは上記のホームページを是非ご覧下さい。変更内容の情報は随時更新します。

●お問い合わせ先：

（問い合わせ先一覧は大会ホームページに掲載されています）

①各種登録システムサポート

「登録ページにアクセスできない」「文字入力ができない」「確認メールが来ない」etc...

②個人情報登録・参加登録

「ID&パスワード照会」「ID削除したいとき」「参加登録変更、取消（要受付期間確認）」etc...

③セッション・予稿集原稿投稿

（但し、システムサポートは①）

④会合の申込

■上記以外大会全般■：

（特別公開セッション、展示、予稿集バックナンバー請求等）

合同大会運営機構 事務局

〒133-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学理学部新1号館719室
Email: Fax: 03-5800-6839

§2 セッション案内

2005年合同大会では、以下の104セッション（企画を除く）が開催されることになりました。各セッションの詳細についてのお問合せは合同大会ホームページ上に掲載している「セッション一覧」をご参照ください。

●講演要旨（予稿集原稿）の投稿について

講演要旨の投稿は1/11～2/21の期間中に合同大会ホームページ上にて行って下さい。

●プログラム編集作業について

プログラム編集作業は2月中旬から下旬にかけて行います。この期間中、代表コンピーナーの方にはご協力をお願いすることがありますので、ご本人もしくは代理の方の連絡先を明確にし、必ず連絡が取れるようにして下さい。なお、代表コンピーナーの方以外の代理をたてる場合は、代理の方の連絡先をプログラム委員

会（ ）まで、予めお知らせ下さい。

●インターナショナル・セッションについて

全ての発表を英語で行うインターナショナル・セッションを開催します。海外からの参加や国内外外国人の参加を歓迎します。（一覧の★印）

●特別公開セッションの開催

「新しい地学教育の試みー2」「近未来地球大予測」（仮題）ほか各学会からのアウトリーチ講演等を予定しています。

詳細は大会ホームページ、プログラムに掲載いたします。また一般向けのポスターを作成し関係機関に広く配布する予定です。ご不明な点などは、運営機構事務局までお問合せください。

セッション開催日：2005/5/22（日）

参加費：無料 参加申込・お問合せ：運営機構事務局

■2005年大会開催セッション一覧■

特別公開セッション：

- ・新しい地学教育の試みー2. 学習指導要領を考える
- ・近未来地球大予測（企画中）
- ・キッチン地球科学

ユニオンセッション：

- ・地球惑星科学における男女共同参画
- ・映像でみる地球惑星科学
- ー竹内均先生追悼特別セッションー

レギュラー・スペシャルセッション：

（レギュラーセッションの提案学会・グループについては、<http://www.epsu.jp/jmoo2005/2005Rsession.html> をご覧ください）

ー大記号・分類名ー ーセッション名ー

V 火山学

- ・活動的火山
- ・マグマシステムと噴火・堆積機構
- ・雲仙科学掘削
- ・火山爆発のダイナミクス：噴火シミュレータの基礎と火山防災への展望

K 岩石・鉱物学

- ・深成岩とマグマ ーその発生から侵入固結までー
- ・鉱物の物理・化学
- ・高圧X線ラジオグラフィ法の20年

S 地震学

- ・地震に伴う諸現象
- ・地震発生の物理
- ・地震活動
- ・強震動・地震災害
- ・地震の理論・解析法
- ・地震計測・処理システム
- ・地震予知
- ・地震一般
- ・地盤構造・地盤震動

- ・震源過程・発震機構
 - ・地殻構造
 - ・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化
 - ・ユーラシア大陸の形成と構造
 - ・長大活断層のセグメンテーションと強震動予測
 - ・阪神・淡路大震災から10年：地殻内地震の強震動研究と2004年新潟県中越地震
 - ・地球内部の能動的モニタリング
 - ・次世代の大地震発生予測
 - ・日本の地震学：この10年、これからの10年
 - ・西日本の地殻活動：その地震サイクルにおける意義
 - ・歪地震動—巨大地震の断層運動を見る
 - ・2004年新潟県中越地震の地震テクトニクス
- H 水文・陸水・地下水学**
- ・水循環・水環境
 - ・同位体水文学 2005
 - ・都市域の地下水・環境地質
 - ・山体基盤岩地下水流動の実態解明とその水資源的評価
 - ・水循環に関わる物質輸送
- W 雪氷学**
- ・コア研究が拓く地球環境変動史
- D 測地学**
- ・重力・ジオイド
 - ・測地学一般(含、計測技術、地球潮汐)
 - ・地殻変動
 - ・GPS
- Q 第四紀学**
- ・第四紀
 - ・沖積層研究の新展開
- C 地球化学**
- ・固体地球化学・惑星化学
 - ・地球環境変化と大気水圏の物質循環
- L 地球環境・気候変動学**
- ・古気候・古海洋変動
 - ・高緯度域における最新の古海洋研究
 - ・地球温暖化防止のためのCO₂固定とカーボンサイクル
- B 地球生命科学**
- ・生命-水-鉱物相互作用の場実態
 - ・アーキアパーク計画：海底熱水系における地圏・生物圏相互作用
 - ・アストロバイオロジー：宇宙における生命の起源・進化・分布と未来
 - ・地球のフィードバックシステム—抽象モデルから観測まで
 - ・コールドシープ活動と現場環境中の微生物学的多様性
 - ・地球生命史
- E 地球電磁気学**
- ・太陽圏・惑星間空間
 - ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション
 - ・電気伝導度・地殻活動電磁気学
 - ・地磁気・古地磁気
 - ・磁気圏—電離圏結合
 - ・宇宙天気
 - ・電離圏・熱圏
 - ・大気圏・熱圏下部
 - ・磁気圏構造とダイナミクス
 - ・赤道大気上下結合
 - ・MUレーダー20周年シンポジウム
 - ★極域熱圏下部オーロラ活動に伴う大気の運動—DELTAキャンペーン—
 - ・地震関連電磁気現象と地殻活動予測の可能性
- I 地球内部科学**
- ・地球構成物質のレオロジーと物質移動
 - ・地球深部ダイナミクス：プレート・マントル・核の相互作用
 - ・地球深部スラブ
- M 地球惑星圏学**
- ・惑星大気圏・電磁圏
 - ・新しい流星電波観測
 - ★スプライトの宇宙及び地上観測
 - ★地球惑星科学における非線形プロセス
- T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス**
- ・地下温度構造・熱過程
 - ・テクトニクス
- G 地質学**
- ・地域地質と構造発達史
 - ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報
 - ・長期火成活動と火山発達史
 - ・放射性廃棄物の地層処分—地層処分における地球科学的課題の検討—
 - ・変形岩・変成岩とテクトニクス
 - ・ガスハイドレート、メタン湧水、およびこれらと関連する海底の諸現象
- Y 防災・応用地球科学**
- ・地質ハザード・地質環境
 - ・火山工学的な災害および防災への取り組み
- P 惑星科学**
- ・惑星科学
 - ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
 - ★初期地球惑星誌：太陽系星雲から生命の誕生に至るまで
 - ・火星
 - ・月から始まる地球惑星進化学
- Z その他**
- ・雷嵐活動の観測法と最近の成果
- J ジョイント**
- ・地球年代学・年代層序学
 - ・活断層と古地震
 - ・地球流体力学—地球惑星科学における「乱流」へのア

プローチー

- ・オフィオライトと海洋地殻
- ・岩石・鉱物・資源
- ・情報地球惑星科学
- ・惑星地球システムの安定性と不安定性
- ・地学教育
- ・巨大地震発生帯の科学
- ・海洋底地球科学
- ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程
- ・大学等からのボトムアップ提案による地球観測科学衛星構想
- ・西太平洋海域の発達過程
- ・海洋底/地球掘削科学 (IODP/ICDP) の成果と将来計画

§ 3 各種登録について (変更・取消他)

合同大会ではまず最初に①『個人情報登録』によって、ID番号を取得していただいております。その後で②～⑤の登録を必要に応じて行って下さい。

- ①個人情報登録
- ②参加登録 (事前申込)
- ③予稿集原稿投稿 (講演申込)
- ④オンラインクレジットカード支払登録
- ⑤郵送先住所指定登録

§ 3. 1 個人情報登録

ID番号は各種登録、照会に必要です。登録は無料ですので、大会ホームページの『個人情報登録』にてご登録を行って、ID番号を取得して下さい。

●参加登録される方、予稿集原稿投稿される方、コンピナー、共著者、座長、合同大会の情報を希望される方全員必要です。ただし、既に登録済みで、ID番号をお持ちの方は再度行う必要はありません。転勤・卒業等で住所変更が生じた場合も、ホームページ上の『個人情報登録』にて、所属・住所変更手続きを行って下さい。

<< 個人情報登録のために必要な情報 >>

- ・氏名 (漢字、カタカナ、英語) 姓と名別々に
- ・所属学会 (複数選択式)
- ・所属機関名 (漢字、カタカナ、英語)
- ・所属機関名略称 (漢字、英語) (表示用)
- ・所属機関住所 (漢字、英語)
- ・身分 (学生、一般 選択式)
- ・TEL, FAX, E-mail

§ 3. 2 参加登録 (事前申込: 4月13日 12:00締切)

●当日ご来場される方 (発表者、座長、聴講・見学のみの方) は、②「参加登録」が必要です。大会当日会場へご入場の際には、参加登録後郵送される名札をご着用していただきます。事前申込は当日申込 (当日登録) より料金がお安くなっています

ので、お勧めいたします。

ただし、会合のみに出られる方は参加登録の必要はありません。総合受付で会合用の名札を受け取り、ご着用をお願いします。

§ 3. 3 予稿集原稿投稿 (申込: 2月21日 12:00締切)

●予稿集原稿投稿される方は①、②に加えて③を行って下さい。共著者も①『個人情報登録』のID番号が必要ですのでご注意ください。当日発表のみされる方は②『参加登録』が必要です。

§ 3. 4 オンラインクレジットカード支払登録

●2005年大会から、予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時にオンラインシステムによるクレジットカード (VISA, MASTER, ダイナース, JCB, AMEX) で料金をお支払いいただくことになりました。内容に従って大会ホームページより支払をお願いします。詳細は§1の「お支払方法」をご覧ください。

§ 3. 5 郵送先住所指定登録

●プログラムおよび予稿集 CD-ROM は、事前参加登録申込者、予稿集原稿投稿者へ5月16日迄にお届けする予定です。

例年、所属機関と実際の居室が異なったり、建物が複数あったりと、郵送物が行き先不明で戻ってきたり、お届けが遅くなるケースが多く見られます。確実に郵送物がお手元に届く住所をここで、ご指定ください。転勤・卒業等で住所変更が生じた場合や、移行期間で住所が未確定な場合なども、ご自宅など確実にお届けできる住所指定を行って下さい。発送業務は、5月9日から11日を予定しています。5月6日までに指定登録をお済ませ下さい。

§ 3. 6 変更・キャンセルについて

●予稿集原稿投稿

2005/2/21 (月) 12:00 まで	変更	○	各自 HP より行って下さい
	取消		
上記以降	変更	×	料金の返金はできません
	取消		

●事前参加登録 (申込)

2005/4/13 (水) 12:00 まで	変更	○	事務局までご連絡下さい
	取消		
上記以降	変更	△	[24 時間券→全日程券]のみ可能。事務局までご連絡下さい
	取消		

連絡方法: Email 又は FAX

連絡先: Email

FAX: 03-5800-6839

(ご連絡時は個人情報 ID 番号もお知らせ下さい。)

§ 4 運営機構からのお知らせ

§ 4. 1 運営機構ホームページのご案内

運営機構のホームページを立ち上げております。運営機構のことだけでなく、2005年合同大会のお知らせ、日本学術会議の動向、

地学教育委員会、各学会へのリンク、地球惑星科学関連の専攻、学科、研究所へのリンク、連絡会関連のお知らせ、等を掲載していきます。

URL <http://www.epsu.jp/>

§ 4. 2 参加費改訂についてお願い

10月12日開催の地球惑星科学関連学会連絡会において、多くの学生(大学院生)の参加を促進することを目的として、2005年大会から学生の参加費を引き下げることが決定されました。その為、財政の現状を考慮し、一般参加者の料金を若干引き上げさせていただく必要が生じております。皆様にはどうかご理解・ご協力いただきますようお願い致します。

また、健全な財政を維持するために、以下の事をお願い致します。

(1) 当日お申込の方は、まず総合受付にお立ち寄りになり、精算を済ませた上で名札を受け取って参加してください。

(2) 名札を着用せずに会場に入られた方には理由をお伺いします。

§ 4. 3 合同大会当日の受付時間について

合同大会期間中の受け付け時間、場所は以下の通りに開設する予定です。

■ 当日総合受付 ■

5/22(日)～26(木) AM 8:30～PM 5:00(予定)

1F 受付カウンター

(参加登録・各種案内)

§ 4. 4 団体展示・書籍出版展示

合同大会では、2F中央ロビー及びホワイエにて、研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。21世紀COEプログラム拠点大学の展示もごさいます。様々な形で自由にご利用頂き、有効な情報交換の場としてご利用ください。ご利用希望の方は、事務局へご連絡下さい。詳細(申し込み要綱)をご案内します。尚、お申し込みは2月末日(最終締切)です。スペースに限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。詳細は、大会ホームページの「各種おしらせ」をご覧ください。

§ 4. 5 合同大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは、プログラム日程決定後下記の通り、先着順で受付しますのでお早めにお申込下さい。会場内の部屋数に限りがございますので、満室になった場合はできる限り会場周辺の会議施設をご紹介させていただきますが、やむを得ずご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

尚、部屋使用料金、お弁当等の詳細はホームページの「会合のお申込」をご覧ください。(学会の総会開催につきましては2/18(金)までに事務局までお知らせ下さい)

■ お申し込み受付 ■

2005/3/3(木) - 5/10(月)

■ お申し込み先 ■

運営機構総務局 2005年会合係(E-mail:

■ お申し込み内容 ■

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 利用人数
- 4) 希望する時間(開始・終了時刻)
- 5) 食事の希望有無(有の場合は弁当数)

§ 4. 6 保育希望の方へ

合同大会では、保育をご希望されます方へ、会場に隣接する千葉市認定保育施設をご紹介します。保育室の利用につきましては合同大気運営機構総務局より金銭的補助をいたします。詳しくは大会HP「各種お知らせ」にてご確認ください。

§ 4. 7 2005年合同大会運営機構組織構成と連絡先

★大会委員長 渡辺秀文(東大・地震研)

<<運営機構>>

代表 浜野洋三(東大・理・地惑)

★財務局

中村正人(2005年担当責任者 宇宙航空研究開発機構)

高橋幸弘(2005年担当副責任者 東北大・理・地物)

木村学(東大・理・地惑)

両宮秀雄(国土地理院)

佐倉保夫(千葉大・理・地球)

綱川秀夫(東工大・理工・地惑)

渡辺誠一郎(名大・理・地惑)

★企画局 plan-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

高橋幸弘(2005年担当責任者 東北大・理・地物)

大村善治(2005年担当副責任者 京大・生存圏研究所)

田近英一(2005年担当副責任者 東大・理・地惑)

浦辺徹郎(東大・理・地惑)

大谷栄治(東北大・理・地球物質)

木村学(東大・理・地惑)

末広潔(海洋研究開発機構)

丸山茂徳(東工大・理工・地惑)

安原正也(産業技術総合研究所)

★情報局 it-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

綿田辰吾(2005年担当責任者 東大・地震研)

坪井誠二(2005年担当副責任者 海洋研究開発機構)

竹内希(東大・地震研)

宮本英昭(東大・工・地球システム)

田近英一(東大・理・地惑)

大村善治(京大・生存圏研究所)

倉本圭(北大・理・地惑)

武井康子(東大・地震研)

林祥介(北大・理・地惑)

古屋正人 (東大・地震研)

冨本尚義 (東工大・地惑)

★総務局

岩上直幹 (2005年担当責任者 東大・理・地惑)

石橋純一郎 (九大・理・地惑)

★プログラム局

篠原育 (2005年担当責任者 宇宙航空研究開発機構)

吉田尚弘 (東工大・総合理工)

原辰彦 (建築研)

北和之 (茨城大)

阿部豊 (東大・理・地惑)

小野高幸 (東北大・理)

岩森光 (東大・理・地惑)

安藤寿男 (茨城大)

中嶋悟 (東工大・理工・理学研究流動機構)

近藤忠 (東北大・理)

渡辺誠一郎 (名大・理・地惑)

★日本水文科学会

安原正也 (産総研)・鈴木啓助 (信州大)

★日本惑星科学会

山本聡 (東大)・高正嗣 (北大)

(以上学会五十音順敬称略)

** 合同大会懇親会の開催について **

前回に引き続きまして、2005年合同大会におきましても、懇親会を企画しております。どうぞ、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。詳しい情報は決まり次第、一斉メール、またHP上で公開いたします。

[2] 第30回地球惑星科学関連学会連絡 会議事録(案)

日時：2004年10月12日(火)14:00~16:30

場所：東京大学地震研究所第2会議室

出席者：両宮秀雄(日本測地学会)、牛尾知雄(日本大気電気学会)、岡元太郎(日本地震学会)、川幡穂高(日本地球化学会)、小暮敏博(日本鉱物学会)、近藤昭彦(水文・水資源学会)、佐藤キエ子(日本陸水学会)、篠原育(運営機構)、鈴木啓助(日本水文科学会)、高橋幸弘(運営機構)、竹本修三(日本測地学会)、田近英一(日本惑星科学会)、棚部一成(日本古生物学会)、中井仁(地球電磁気・地球惑星圏学会)、中村正人(運営機構)、七山太(日本地質学会)、浜野洋三(運営機構)、藤井良一(地球電磁気・地球惑星圏学会)、三浦英樹(日本第四紀学会)、宮本英昭(日本応用地質学会)、諸井孝文(日本地震学会)、山野誠(日本地震学会)、綿田辰吾(運営機構)、渡辺秀文(日本火山学会)、渡辺寧(資源地質学会)、以上25名

配付資料：

1. 議事次第
2. 2004年度地球惑星科学関連学会連絡会(拡大会議)議事録(案)
3. 2004年合同大会決算
4. 2004年合同大会会計監査報告
5. 2005年合同大会に関する資料
6. 地学教育、理数系教育に関する提言案

議事：

1. 前回議事録の承認(連絡会会長：渡辺)
2004年度地球惑星科学関連学会連絡会(拡大会議、5月13日開催)議事録について、案の通り承認された。
2. 2004年合同大会決算報告(運営機構：中村)
運営機構財務局から2004年合同大会の決算報告があった。2004年度(2003年7月1日~2004年6月30日)の収支は、1,078,734円の赤字であった。これは、従来業者に委託していた運営作業の大部分を事務局に移行したために、システム変更に費用がかかっ

合同大会はボランティアで成り立っています
皆様の積極的参加をお願いします

<<共催学会選出プログラム委員 正・副>> pcom-ml@epsu.jp

★プログラム委員長 篠原育(宇宙航空研究開発機構)

★資源地質学会

藤本光一郎(東京学芸大)・渡辺寧(産総研)

★地球電磁気・地球惑星圏学会

高橋幸弘(東北大)・石川尚人(京大)

★日本火山学会

大野希一(日大)・下司信夫(産総研)

★日本岩石鉱物鉱床学会

榎並正樹(名古屋大)・廣井美邦(千葉大)

★日本鉱物学会

冨本尚義(東工大)・三河内岳(東大)

★日本地震学会

青木元(仙台管区気象台)・岡元太郎(東工大)

★日本測地学会

加藤照之(東大・地震研)・大坪俊通(情報通信研究機構)

★日本第四紀学会

奥村晃史(広島大)・宮内崇裕(千葉大)

★日本地下水学会

丸井敦尚(産総研)・宮越昭暢(産総研)

★日本地球化学会

鈴木勝彦(海洋研究開発機構)・角皆潤(北大)・

下田玄(産総研)

★日本地質学会

七山太(産総研)・久田健一郎(筑波大)

たこと、事務局を増強したことなどによるものである。当初は500万円程度の赤字を見込んでいたが、投稿料、参加料、団体展示出展費の増収などにより、約100万円に抑えることができた。

3. 会計監査報告（連絡会会長：渡辺）

連絡会会計幹事2名が、8月17日に運営機構事務局（東京大学内）において2004年合同大会決算報告書の監査を行い、予算の執行、帳簿・証票の整理等、正常適正に処理されていることを確認した旨が報告された。

4. 2005年合同大会

(1) 準備状況（運営機構：中村、篠原、高橋）

2005年大会の準備状況について、配付資料に基づいて説明がなされた。

・投稿料、登録料は2004年と同額とする予定である（(2)、(3)を参照）。会合会場使用費を値上げする。

・支払いは機関払いを除いてクレジットカードのみとし、登録、投稿と同時に支払いができるようにする。

・システム変更費用、事務局の増強などに費用を要するため、登録者数、投稿数が増加しない場合には赤字となる。各学会で参加者を増やすための呼びかけをお願いしたい。

・日程は2005年5月22日（日）～26日（木）とする。これに合わせて、投稿締め切り等の期日も2004年よりやや遅くなる。

・新たな試みとして、インターナショナル・セッションの提案を募集している。これは、合同大会の枠内で国際的な小研究集会を行うというものである。合同大会に外国人が参加しやすくなるよう、通常のポスターセッションでも英語表記を増やすことを奨励している。

・地学教育に関する公開セッションを引き続き開催する予定である。アウトリーチのための公開セッションを行うことも検討している。

(2) 質疑

・学生の登録料を一般の半額程度にすることはできないか。

・一般の登録料を少し値上げをすれば可能である。試算をしてみる。

(3) 登録料の変更

上記の質疑に基づき、学生の登録料を一般の半額程度とすることが提案された。運営機構による試算を検討した結果、2005年大会の登録料を以下のように改定することが承認された。

事前全日程：一般11,000円、学生5,500円

当日全日程：一般13,000円、学生7,000円

事前24時間券：一般6,000円、学生3,000円

当日24時間券：一般7,000円、学生4,000円

5. 協賛学会の承認

連絡会会長より、日本古生物学会、日本大気電気学会から合同大会協賛の申請があったことが紹介された。連絡会として、この2学会の協賛を承認した。

6. 連携のあり方に関する検討ワーキンググループ

(1) ワーキンググループ会合報告（浜野）

地球惑星科学に関連する学会の連携組織について、ワーキンググループにおける検討の状況について、報告があった。

現在、ワーキンググループには19の学会が参加している。過去2回の会合（6月19日、7月24日）により、連携のための組織の概要、及びその機能についての議論がある程度固まり、連携組織設立のための準備会を立ち上げることが提案された。この提案に対して、多くの学会から賛同が得られたので、10月30日に第3回のワーキンググループ会合を開き、その場で準備会を立ち上げることになった。組織の設立時期としては、2005年合同大会期間中を想定している。

組織が機能するには事務局の整備が必要であり、それには運営資金をどのように確保するかが問題となる。連絡会が果たしてきた機能と重なる部分については、準備会での検討が進みしたい。臨時の連絡会で議論するか、メールによって意見の集約を図ることになるであろう。

ワーキンググループ、準備会ともにオープンなものであり、より多くの学会に参加してもらいたい。準備会設立後にも参加可能であるので、宣伝をお願いしたい。

(2) 質疑

・連携組織の運営資金は、学会からの分担金によるのか、個人から集めるのか

運営資金に関しては、設立準備会を立ち上げた後に、準備会において検討する予定である。

7. 「地学教育」委員会（中井）

(1) 地学教育に関する提言

学習指導要領の改訂に向けて、地学教育に関する提言を、合同大会共催・協賛学会長・理事長の連名で行いたいという提案があり、「地学教育」委員会によりまとめられた「社会の持続的発展を促す地学教育のための提言」（案）が配付された。各学会で早急に検討し、提言の趣旨に賛同するかどうかを10月28日までに連絡会事務局に伝えることで合意した。

(2) 理数系教育に関する提言

理数系学会教育問題連絡会に、地学分野を代表して2004年6月より地球惑星科学関連学会連絡会が参加し、委員を派遣している。この教育問題連絡会が作成した「理数系諸学会からの、教育課程等教育に対する改革の提案」が配付され、所属団体からの承認が求められているとの説明があった。提案の趣旨に賛同し、連絡会として提案に加わることを承認した。

(3) その他

(1)の提言案に対応するものとして、学習指導要領の試案を作成する専門委員会を立ち上げようとしていることが報告された。

新たに連絡会に加わった学会からも、「地学教育」委員会に委員を出してもらいたいとの要請があった。

[3] 連携のあり方に関する検討ワーキンググループ報告

◆ 第2回会合報告 ◆

日時：平成16年7月24日(土) 13:30-16:50

場所：東京大学地震研究所第2会議室

出席者(敬称略)

日比谷紀之(日本海洋学会)、中川光弘(日本火山学会)、本山秀明(日本雪氷学会)、小寺浩二(日本陸水学会)、近藤豊(日本気象学会)、平原和朗(日本地震学会)、本蔵義守(地球電磁気・地球惑星圏学会)、加藤照之(日本測地学会)、田近英一(日本惑星科学学会)、大谷栄治(日本岩石鉱物鉱床学会)、鈴木啓助(日本水文科学学会)、川幡穂高(日本地球化学会)、塚本尚義(日本鉱物学会)、奥村晃史(日本第四紀学会)、木村学(日本地質学会)、渡辺秀文(地球惑星科学関連学会連絡会)、松浦充宏(地球物理学研連)、浜野洋三(合同大会運営機構、WG取りまとめ)

配布資料

1. ワーキンググループメンバー表
2. 連携WG第1回会合報告
3. 地球惑星科学の連携組織創設のために必要な検討事項メモ

報告事項

1. 今回から日本岩石鉱物鉱床学会を代表して大谷栄治氏がメンバーとして加わった。この結果、本ワーキンググループ参加学会は、下記の18学会(会員数合計約27,000名)となった。なお、連携組織設立に向けての準備状況については、今後とも地球惑星科学に関わる学会等に広く情報を公開するものとする。

(参加学会)

日本海洋学会、日本火山学会、日本雪氷学会、日本陸水学会、日本気象学会、日本地震学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本測地学会、日本惑星科学学会、日本岩石鉱物鉱床学会、日本水文科学学会、水文・水資源学会、日本地下水学会、日本地球化学会、日本鉱物学会、資源地質学会、日本第四紀学会、日本地質学会

2. 地球惑星科学連携のための組織を創設すること、及びこの組織の具体的役割を本ワーキンググループで検討することについては、既に参加各学会の合意が得られていることを再確認した。

3. 連携組織の備えるべき基本的機能は以下の4-(3)項に掲げるものとする。このことにより、参加各学会の合意が得られた。但し、これらの全ての機能を創設時に備えるのではなく、参加学会の合意の下に実現可能なものから順次整えていくこととする。

4. ワーキンググループでの議論を踏まえ、連携のための組織の概要を以下のようにまとめ、参加各学会に提示することとした。

(1) 組織の名称は「日本地球惑星科学連合(仮称)」とし、対応する英語名はEarth and Planetary Science Union of Japan (EPS

Union of Japan)(仮称)とする。

(2) 本組織は、地球惑星科学の総合的発展を目的として関連加盟学会の総意の下に創設される、地球惑星科学の連携組織である。

(3) 加盟学会は、地球惑星科学全体の発展に関わる下記の機能を本組織に委託するとともに、組織を運営していく上で必要な人材の派遣及び情報の提供が義務づけられる。

(a) 日本学術会議や総合科学技術会議等の公的機関及び社会一般からの地球惑星科学コミュニティへの諸要請の受け手としての機能、及びコミュニティの意見を集約して対外的に発信/公開していく機能。

(b) 地球惑星科学に関わる国際学協会や国際プロジェクト等への対応機能。

(c) 地球惑星科学に関わる研究成果の発表及び情報交換のため、地球惑星科学合同大会や国際会議等を企画・運営・開催する機能。

(d) 地学教育の在り方、地球観測の推進方策、将来的な地球惑星科学発展の方向など、地球惑星科学コミュニティ共通の問題の検討を行う機能。

(e) その他、地球惑星科学の総合的発展を目的とした諸活動を推進する機能。

(4) 本組織は、協議会、理事会、及び事務局から構成される。協議会は加盟学会の代表者から構成され、本組織の基本的運営方針について審議する。理事会は本組織の運営全体を統括し、各理事は(3)項に掲げた各機能を果たすための委員会を組織・運営する。事務局は常勤の事務局長及び職員から構成され、本組織運営に関わる事務を行う。

(5) 本組織の運営に必要な経費については、加盟学会からの直接的な貢献(分担金)には依存せず、各加盟学会から提供される情報及び知的生産物に基づいて本組織が編集した広報誌或いは出版物の対価として個人登録会員が支払う年会費(1000円~2000円程度)を原資とする。

(6) 本組織の設立時期としては、平成17年5月の地球惑星科学合同大会期間中を想定する。

5. 日本学術会議改組への対応も考慮に入れると、本組織設立のための準備活動を早急に開始する必要がある。本ワーキンググループとしては、「地球惑星科学連合(仮称)」設立準備会を本年9月に立ち上げることを提案する。この提案については地球物理関連学会会長等懇談会及び関連各学会で早急に検討をしていただき、設立準備会設置の了承並びに準備会への参加意思について8月末日迄に各学会から回答をいただくこととした。なお、今後の準備作業を効率的に進めるためには、本ワーキンググループを発展させた形で(母体として)設立準備会が設置されることが望ましく、この点に関しても地球物理関連学会会長等懇談会及び関連各学会の了承をお願いすることとした。

6. 学術会議の改組後も学協会の認知要件については従来と大きな変更がないようであるが、その一方で、新たに設置される領域別委員会については、地球惑星科学分野全体で1乃至2となるこ

とが予想される。また、学術会議から各学会へのアンケートはこの秋頃に予定されている。こうした状況下で地球惑星科学としてのまとまりを対外的に示すためには、参加各学会の基本的合意が得られて設立準備会が設置された時点で、「設立準備中の地球惑星科学連合（仮称）が地球惑星科学を代表する連携組織として新学術会議立ち上げの対応窓口となる」ことを、各参加学会が学術会議からのアンケートに回答する際に表明していただくことが必要と考えられる。

<検討内容補足>

1) 組織の名称は、この組織が学会の連合体ではなく、地球惑星科学関連の諸分野の連合をはかるものであることを明確にするために考えられた暫定的なものである。今後、この組織の創設までに参加各学会の意見によって変更される可能性がある。

2) 加盟学会に分担金を求めるかどうかについては、様々な観点から検討を行った。各学会の加盟を明確にする意味では各学会から分担金を提供していただくことが必要との意見がある一方で、加盟学会には様々な事情があり、分担金の支出が財政的に困難であるケース、或いは分担金を必要とするなら参加を見合わせるケースもあり得るので、最初から分担金を求めることは難しいのではないかという意見もあった。また、加盟学会の財政事情によって分担金の金額に差を付けるとか、或いは支出可能な金額を申告していただくようなことも考えられるが、学会によって分担金が異なるのは好ましくない等の意見があった。その他、分担金ではなく寄付金ではどうかとの案も出されたが、本組織運用に必要なのは事務局の人件費が主なものとなることから、一時的な寄付金は適切ではないとの反対意見があった。検討の結果、資金面については、当面は加盟学会の直接的な負担は要請しないこととした。但し、組織が整備されてきた段階で、加盟学会の状況に応じた応分の負担をお願いする可能性は留保しておく。いずれにしても、このような基本方針の変更については加盟学会の代表者で構成される協議会等での審議を経るものとし、資金負担が必要となった場合でも、それを強制することはしない。

3) 組織創設時の機能は実現可能なものだけとし、創設後に順次整備していくこととする。ワーキンググループで話題に上った検討事項は、地球惑星科学に関わる成果の学術誌による発信、若手研究者の学術研究活動推進のための方策等である。

4) この組織の活動としては、「地球惑星科学」の発展のために、「地球惑星科学」の枠を拡張して、新しい分野を積極的に取り込んでいくことが重要であると考え、従って、本組織の設立準備作業については可能な限りオープンに行い、現在参加していない地球惑星科学関連学会も今後参加することが可能なように留意する。

(日本雪氷学会)、佐藤キエ子(日本陸水学会)、近藤豊(日本気象学会)、平原和朗(日本地震学会)、中村正人(地球電磁気・地球惑星圏学会)、加藤照之(日本測地学会)、田近英一(日本惑星科学学会)、大谷栄治(日本岩石鉱物鉱床学会)、川幡穂高(日本地球化学会)、赤荻正樹(日本鉱物学会)、奥村晃史(日本第四紀学会)、脇田浩二(日本地質学会)、鹿園直建(資源地質学会)、宮越昭暢(日本地下水学会)、北里洋(日本古生物学会)、宮本英昭(日本応用地質学会)、渡辺秀文(地球惑星科学関連学会連絡会)、松浦充宏(地球物理学研連)、浜野洋三(合同大会運営機構、WG 取りまとめ)、西田篤弘(日本学術会議)、久城育夫(日本学術会議会員候補者選考委員会)、平林順一(地球物理学関連学会会長等懇談会)、井内美郎(地質学研連)、藤野清志(鉱物学研連)

報告事項

1. 今回から日本古生物学会、日本応用地質学会が参加され、本ワーキンググループ参加学会は、下記の20学会(会員数合計 約30,000名)となった。

(参加学会)

日本海洋学会、日本火山学会、日本雪氷学会、日本陸水学会、日本気象学会、日本地震学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本測地学会、日本惑星科学学会、日本岩石鉱物鉱床学会、日本水文科学会、水文・水資源学会、日本地下水学会、日本地球化学会、日本鉱物学会、資源地質学会、日本第四紀学会、日本地質学会、日本古生物学会、日本応用地質学会

2. 日本地球惑星科学連合設立準備会の設置

(1) それぞれの学会から設立準備会設置の了承と参加意思を確認した。

(2) 準備会の要綱について検討し、原案を修正の上、承認した。この要綱の承認によって、準備会発足となる。要綱は別紙1に示す。

(3) 要綱にもとづいて準備会委員を決定した(委員名簿は別紙2)。準備会委員は各学会から1名を基本とし、必要に応じて学術会議・研連からオブザーバー(議題によっては投票権を持つ)の参加を求める

(4) 準備会を開催し、互選により浜野合同大会運営機構代表を準備会委員長に選んだ

(5) 幹事若干名は後日、浜野委員長が指名することとした。

(6) 準備会内部の取り決めとして、決議は出席者の2/3の賛成で成立することとした。ただし、重要案件は各学会へ持ち帰る時間的猶予を設け、場合によってはメールで各学会の意志を確認することとした。

3. 日本学術会議改革への対応について

(1) 日本学術会議・西田篤弘会員から、日本学術会議の改革への取り組みの進展状況について説明を受けた。日本学術会議は、第20期(2005年10月発足)からその仕組みが大きく変わる。物理、化学など統一の取れている分野に比べ、多くの学会が並立していると見られている地球惑星科学分野が連合(2-3万

◆ 第3回会合および日本地球惑星科学連合設立準備会第1回会合報告 ◆

日時:平成16年10月30日(土)13:30-16:55

場所:東京大学理学部3号館326号室

出席者(敬称略)

日比谷紀之(日本海洋学会)、高田亮(日本火山学会)、西尾文彦

人規模)を組み、一つの大きな発言力を持つことは、特に、この変革の時期に望ましい事が強調された。日本学術会議では、改革推進のために有識者5名からなる「日本学術会議の新しい体制の在り方に関する懇談会」を開催する。懇談会は平成17年9月までの間、適宜開催され、連携会員の在り方、国際交流活動の在り方、学術研究団体との連携の在り方、政策提言機能発揮の在り方、等について検討し、日本学術会議会長に報告する。

(2) 日本学術会議会員候補者選考委員会・久城育夫委員から、来年10月の制度改正後に会員となるべき候補者の選考の手続きについて説明を受けた。会員候補者選考委員会は全体で30名で構成されている。地球惑星科学の関係する理数系では5名の選考委員で構成され、数学、物理、プラズマ、天文、地球惑星科学・地理の分野を取り扱う。また選考には選考委員に加えて10名の専門委員(数学2名、物理3名、プラズマ1名、天文1名、地球惑星科学・地理3名)が参加する。選考は各学協会、大学から情報提供を受けた候補者を参考にしながら各分野で進められる。地球惑星科学・地理学分野については久城選考委員および3名の専門委員により選考される。会員候補者については、現在各学協会に情報提供の依頼書類が送られており、締め切りは平成16年12月24日となっている。

4. 学術会議会員候補者の情報提供に関する準備会の対応

(1) 次回の準備会において、各学会からの会員候補者のリストを集約し、地球惑星科学分野全体からみて適切な候補者についての共通認識を構成する作業を行う。

(2) 締め切りに間に合わせるべく、次回の準備会を締め切りの約3週間前に開催することを決定した。

(3) 各学会は候補者を選び、3名程度について会員候補者情報提供書類の個人登録カードに記入し、11月26日(金)までに、運営機構事務局に添付書類として送付する。事務局では各学会からの資料をまとめ、準備会委員等に送付する。これらの資料に基づいて次回の準備会の場で検討を行う。

5. 次回の準備会は平成16年12月4日(土)に開催する。

[4] 地学教育に関する提言

「地学教育」委員会 中井 仁

1. 中央教育審議会へ提言提出

中央教育審議会は、学習指導要領次期改訂に向けてのパブリックコメントを募集するなど、活発な活動を行っている。地球惑星科学関連学会連絡会・「地学教育」委員会は、この動きに対応するために、中教審へ向けての提言書作りを行った。同委員会は、10月12日に東京大学地震研究所で開かれた地球惑星科学関連学会連絡会に提言書の文案を提出し、同委員会世話人の一人である筆者が趣旨説明に当たった。

今回の提言文は、地学教育の重要性を訴え、地学教育の現状に

おける問題点を指摘することに重点をおいて作成された。従って、指導要領改訂に当たっての具体的な要求は最小限に止められている。連絡会の席上、「ある調査結果によると、小学4~6年生の4割が天動説を支持しているそうだが、これを踏まえた文章を付け加えたらどうか」という趣旨の意見が出された。(この調査結果については、「科学」(岩波書店)2004年7月号、または「星ナビ」2004年11月号(アストロアーツ)参照。)筆者は、提言文作成に当たっての委員会の方針を説明して、さらに「具体的に何をどの時期に教えるは、教育課程全体を見通して考えなければならない。学習指導要領の地学分野に関する試案作りを「地学教育」委員会で行う予定である」と答えた。

案文は微修正を加えて承認され、各学会の承認手続きが行われた。その結果、連絡会所属の22学会から賛同が得られ、2004年11月1日付けの提言書が22学会会長(理事長)連名で、中央教育審議会初等中等教育分科会会長:木村孟氏、ならびに同・教育課程部会理科専門部会主査:松香光夫氏に提出された。松香氏からは、次のようなコメントを頂いた。「今後行われる専門部会において、参考資料として提出したいと思っている。今後どのように生かしていけるか、何が出来るかを検討している。今後、他の団体の動きやシンポジウムなど、情報を共有していけるようにしたい。」地球惑星科学関連学会と中教審との連携の嚆矢としての提言の役割は、果たせたと思われる。今後、連携をより密にして、学習指導要領だけではなく、理科・地学教育全般について我々の意見が教育行政に反映されるよう、図っていかなければならない。

以下に提言文を掲載する。(提出先、提出学会名、学会長(理事長)名は省略。)

社会の持続的発展を促す地学教育のための提言

私達、地球惑星科学関連22学会(別記)は、我国の初等・中等・高等教育における地学分野の教育の著しい衰退と、それが将来に及ぼす悪影響を大変に危惧しています。この状況を改善するために、私達は連名で、文部科学省ならびに関係諸機関に以下の提言を行います。

提言

地学分野の教育は、人類の持続的発展に不可欠な教育内容を含んでいるにもかかわらず、長年にわたり著しい衰退傾向にある。そこで地球惑星科学関連22学会(別記)は、文部科学省ならびに関係諸機関に、日本の初等・中等・高等教育における地学分野の教育の重要性を認識し、その発展に努めることを要望する。

(1) 義務教育段階の理科教育は、「生きる力」を育む地学分野の教育内容を十分含んでいないと考えられる。この状況を早急に改善すること。

(2) 後期中等教育(高等学校等)において、地学分野の教育を受ける生徒の割合が長期に亘って減少し続けている。より多くの生徒が地学分野の教育を受けられるように、教育課程を改正するこ

と。

(3) 初等・中等教育において地学分野を教えることができる教員を育成するため、大学等の高等教育機関における教員養成のあり方を見直し、教員免許法施行規則を改正すること。

(4) 初等・中等教育における地学分野の教育を充実させるため、同分野の内容をテーマとした現職教員の研修を、より一層充実させること。

(5) 地学分野の内容をテーマとした生涯教育の取り組みを支援すること。

提言の趣意

提言の背景

初等・中等教育における理科教育の目標は、日本および世界の将来を担う児童や生徒達が、豊かな人生観や科学的な自然観を身に付けられるようにすることである。彼らが幅広い知識と技能を身に付け、それらを用いて人類が直面するさまざまな問題の解決策を自ら考える機会を与えられることが重要である。

産業革命以後、科学技術は飛躍的な発展を遂げ、我々はその恩恵を受けている。しかしその反面、科学技術に支えられた人類の経済活動は、「地球温暖化問題」のように地球環境を脅かす様々な問題を引き起こしつつある。地学は、このような課題を考え、解決方法を探求する上で必要不可欠な内容を扱う。(以下、地学は高等学校科目「地学」とその他の科目の地学分野、ならびに小・中学校の理科地学分野を指す。)

しかしながら、このような理科教育における地学の重要な役割は、広く認知されているとは言いがたい。その結果、近年、小・中学校では地学分野の専門的な知識を持つ教員が目立って少なくなり、高等学校では、科目「地学」履修者の減少と相まって、講座を開講することさえできない学校が増加してきている(参考文献[1],[3])。私達、地球惑星科学関連の22学会は、このような現状によってもたらされるであろう影響を憂い、社会の持続的発展を進めるために、地学教育が必要かつ重要であることを訴える。

地学分野の特徴と地学教育の今日的意義

地学は、地球の起源や人類の進化などといった、子供達が持つ根元的な問いに答え、宇宙の姿などのように子供達の夢を育む内容を、豊富に含む科目である。また、大きな時間・空間スケールを扱うことによって、児童や生徒の時間・空間概念の形成を助けることができる。さらに、地震や火山、台風といった生活に直接関わる自然現象を扱い、資源や環境問題など、全人類に共通の問題を扱う(参考文献[2])。

また地学は、自然を探求し記述する方法において、理科の他の分野とは異なった特徴を持っている。すなわち、他分野の科学、特に物理や化学が、自然現象を要素還元的に捉える傾向が強いのに対し、地学は数多くの事実を収集し分析した後、それらをまとめて説得力のある一つの全体像を描くという方法をしばしば用いる。このような方法によって得られた成果の一つが、地球環境の有限性についての人類共通の認識である。

従って地学教育は、我々の文明が自然と調和しつつ発展してい

くことを考える上で、必要不可欠な知識と手段を学習する機会を児童や生徒に与える、という独自の使命を担っている。

仮に、地学教育が私達22学会の願いに反して今後さらに衰退していくとしよう。例えば、自然災害についての十分な知識が無いために、貴重な人命が失われる恐れが増大するだろう。また、ますます影響が懸念される地球温暖化についての国民的理解が得られず、その対策の実施が遅れるなど、我々の社会とその将来に重大な悪影響をもたらすであろう。

地球惑星科学関連22学会は、本提言が早期に具体化されることを強く望む。

参考文献

- [1]「地学教育の昨日・今日・明日—地球惑星科学は理科・地学離れを救えるか?」、地球惑星科学関連学会合同大会, 2003.
- [2]「新しい地学教育の試み—地球惑星科学から「高校地学」へ」、地球惑星科学関連学会合同大会, 2004.
- [3]「平成18年度(2006年度)以降の大学入試センター試験「地学」出題方式(「理科」内でのグループ分け)に関する要望」、地球惑星科学関連学会会長, 2004.

なお、「地学教育」委員会では、上に記したように、学習指導要領試案作りを計画している。「地学教育」、「地質」、「地震・火山」、「地球化学」、「海洋」、「気象」、「天文・惑星」の各分野から2名の専門委員を選出して、小・中・高校の地学分野の学習指導要領を、来年度1年をかけて検討する。2005年合同大会では、その中間報告をかねたユニオン・セッションを予定している。

2. 理数系学会教育問題連絡会の提言

前述の地学教育のための提言とは別に、理数系学会教育問題連絡会(以下、理数系連絡会)の中央教育審議会宛の提言が、10月12日の連絡会で審議・承認された。理数系連絡会は、12月初旬に会合を開いて提言を確定し、提出する予定。

なお、理数系連絡会(世話人:浪川幸彦氏)への加盟は、2004年合同大会の折りの拡大連絡会議で承認された(連絡会ニュース2004年7月)。本連絡会からは渡辺秀文会長および「地学教育」委員会委員の阿部国広氏、南島正重氏、間々田和彦氏、ならびに筆者が、担当委員として登録している。

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース 第31号
2004年12月3日発行

発行: 地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会会長 渡辺秀文

編集: 地球惑星科学関連学会連絡会
連絡会幹事会ニュースレター担当 諸井孝文